慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	国分, 良成(Kokubun, Ryosei)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2008
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.81, No.12 (2008. 12) ,p.v- vii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	藤原淳一郎教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20081228--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

長年にわたり、法学部の行政法、エネルギー法の専任教員として、研究と教育に多大なるご貢献を果たされた藤原淳一郎教授が平成二一年三月末日をもって退職される。藤原教授の法学部に残された多くの足跡と業績に鑑み、『法学研究』誌上に先生のご退職を記念する特集号を組み、ここに学部として謹呈させていただきたく思う。

藤原淳一郎教授は一九六六年に本塾大学法学部法律学科をご卒業後、郷里に戻り、神戸大学大学院法学研究科に入学し、山田幸男教授のもとで行政法研究の道に入られた。ちなみに本塾大学法学部では石川明研究会に所属し、民事訴訟法を専攻された。神戸大学大学院では、修士課程に続いてそのまま博士課程に進学されたが中途退学し、七〇年四月に本塾大学大学院法学研究科博士課程に戻られると同時に法学部助手として採用され、金子芳雄教授のもとで研究者としての研鑽を積まれた。その後、七四年に法学部専任講師、七八年に同助教授、八七年に同教授と昇任され、現在にいたっている。この間、七五年四月から一年半にわたりドイツのケルン大学、八五年にはドイツのミュンスター大学、ゲッティンゲン大学、米国のコーネル大学、九二年八月から一年間米国のコロンビア大学法科大学院に留学されるなど、実に豊富な海外経験を経てご自身の学問を充実したものにされている。

もとより行政法の分野は官学が伝統的に優位にあり、私学は後塵を拝さざるをえない苦しい立場に置かれていた。藤原先生ご自身の言によれば、そのような状況のなかで、ドイツ留学中に盲腸の手術を受け、その最中に神

からの「啓示」を受け、それまで前例のない「エネルギー法」の専攻を思いついたという。真偽のほどはともかくも、いかにも藤原先生らしさを感じさせる逸話である。

爾来、藤原先生はエネルギー法のパイオニアとして学界で頭角を現し、周知のように時代とともにその重要性は増し、官界、産業界において注目される存在となった。そして先生はやがて電力・ガス規制との関連で運輸・情報通信等、他の公益事業分野とも接点を持つようになり、法律家として初めて経済畑の公益事業学会副会長を歴任された。また、日本公法学会においても、長年にわたり理事としてご活躍された。これらの学会やシンポジウムなどの場で、藤原先生は「質問男」として名を馳せられたとのことだが、それは学部の教授会や各種の会議でもその発言回数が群を抜いていたことと符合する。先生のご発言からは、われわれが見逃しそうな部分や複雑な話をよく聞かれていると感じさせることが多い。また、そうした会議の場で配布される文書や資料を実に丁寧に目を通されており、緻密な実証主義的研究者の香りを感じさせる。

藤原先生の主要な業績は、法学博士の学位を取得された『十九世紀米国における電気事業規制の展開』（慶應義塾大学法学研究会叢書、一九八九年）のほか、『現代経済社会と法』（共著、三省堂、一九九〇年）、『アジア・インフラストラクチャー――21世紀への展望』（編著、慶應義塾大学出版会、一九九九年）、『市場自由化と公益事業――市場自由化を水平的に比較する』（共監修、白桃書房、二〇〇七年）などに集約される。

藤原先生のご研究は現実の社会との接点のうえに大きく発展した。以下のような、歴任された数多くのそして多彩な学外活動を見れば、先生の果たされた社会貢献の大きさも伝わってくる。経済産業省総合資源エネルギー調査会臨時委員、旧通商産業省電気事業審議会専門委員、同総合エネルギー調査会臨時委員、同石油審議会専門委員、総務省情報通信審議会専門委員、防衛省防衛人事審議会委員、旧経済企画庁物価安定政策会議専門委員、エネルギー総合推進委員会委員、川崎市公文書公開審査会会長、川崎市個人情報保護審査会会長、横須賀市公文

書公開審査会委員長、旧文部省法学教育の在り方等に関する調査研究協力者会議委員、原子力発電環境整備機構（NUMO）情報公開適正化委員会委員長、有限責任中間法人電力系統利用協議会中立者委員等々。

藤原先生は一度お会いすれば、誰も忘れることがない。チャームポイントは目。一見するとぎょろりと見られて怖そうにも思えるが、お話すると途端に大きな目が優しい目に変わり、ジョークを交えた楽しい会話となる。ゼミ学生との合宿や飲み会では、「藤原歌劇団」に変貌してカラオケに興じる学生から慕われる一人の教師でもある。

藤原淳一郎教授が義塾を去られることは法学部としても損失である。また、いつものように本をぎっちり詰め込んだキャリーバックを引きながら、三田の山を歩かれているお姿を日常的に拝見できないことも寂しい。しかし、今後は後進の青木淳一専任講師が立派に藤原先生の学問を継承し、発展させてくれるにちがいない。今後とも、藤原先生がご健康にご留意されながら、各方面でご活躍されることを切に期して巻頭のご挨拶としたい。

平成二〇年一二月

法学部長　国分良成